

第Ⅱ編 公共事業環境配慮

「設計・実施」

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1 集落排水（処理有） | 1 6 駅前広場築造 |
| 2 農村公園整備 | 1 7 道路植栽 |
| 3 防火水槽 | 1 8 宅地造成 |
| 4 集落農園 | 1 9 公園植栽 |
| 5 林道開設（改良） | 2 0 公園整備 |
| 6 キャンプ場整備 | 2 1 土地区画整備事業 |
| 7 道路改良（築造） | 2 2 公共下水道 |
| 8 舗装新設 | 2 3 都市下水路 |
| 9 側溝改良 | 2 4 河川 |
| 1 0 用悪水路改良・水路築造 | 2 5 建築工事 |
| 1 1 防護柵新設 | 2 6 建築解体 |
| 1 2 歩道新設 | 2 7 グラウンド改修 |
| 1 3 道路照明 | 2 8 建物外構 |
| 1 4 橋梁整備 | 2 9 水道管布設 |
| 1 5 交差点改良 | 3 0 ポンプ室新設 |

● 『設計・実施』時に配慮する事項

1. 集落排水（処理有）工事

工種	配慮する事項	環境要素
掘削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
埋戻し	現場内発生土、再生クラッシャーラン及び改良土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30cm程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。（マニフェスト管理）	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。（マニフェスト管理）	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
構造物	二次製品を積極的に使用する。	19①
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。（立杭基礎・マンホール基礎・管基礎は除く）	13① 18①
	塩ビマンホールの使用を積極的に検討する。	13① 18①
路盤工	下層路盤は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①
仮設工	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
	木製支保工に変え鋼製腹起し並びにアルミ水圧サポートの使用に努める。	18①

2. 農村公園整備工事

工種	配慮する事項	環境要素
掘削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
埋戻し（盛土）	現場内及び他現場の発生土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。（マニフェスト管理）	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。（マニフェスト管理）	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
構造物	二次製品を積極的に使用する。	19①
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①

3. 防火水槽工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
埋戻し（盛土）	現場内及び他現場の発生土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。（マニフェスト管理）	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。（マニフェスト管理）	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
構造物	二次製品を積極的に使用する。	19①
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①

4. 集落農園工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
	再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
埋戻し(盛土)	現場内及び他現場の発生土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
構造物	二次製品を積極的に使用する。	19①
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①
浸透柵	市街地など地下涵養が有効な地域には浸透柵を積極的に設置する。	6①

5. 林道開設(改良)工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	土砂の逸散、飛散の防止に努める。	13①
	残置森林の損傷の防止に努める。	10②
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
	受入地(路線内)は、周囲の自然環境や待避所などの施設を考慮し選定する。	13①
	受入地は土砂流出に考慮した位置を選定し、必要に応じ構造物を設置する。	13①
	受入地の規模及び構造については、当年度の発生土量のみでなく、翌年度以降の発生土量も把握し決定する。	13①
埋戻し	現場内発生土を使用する。	13① 18①

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
盛 土	現場内発生土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
法面保護工	植生工による法面保護工だけでは法面が安定しない場合や、植生の導入が困難な場合以外は、植生工による法面の緑化を図る。	10②
構造物	補強盛土工法等を活用する。	10② 14①
	丸太柵工には間伐材を活用する。	18①
	排水施設は、河川または自然排水路まで整備する。	13①
	排水を林地内で処理する場合は、フトン籠等により侵食の防止を図る。	13①
	二次製品を積極的に使用する。(集水桝等)	19①
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	18①
路面・ 路盤工	路盤材は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①

6. キャンプ場整備工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	土砂の逸散、飛散の防止に努める。	13①
	残置森林の損傷の防止に努める。	10②
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
	受入地(現場内)は、周囲の自然環境や待避所などの施設を考慮し選定する。	13①
	受入地は土砂流出に考慮した位置を選定し、必要に応じ構造物を設置する。	13①
	受入地の規模及び構造については、当年度の発生土量のみでなく、翌年度以降の発生土量も把握し決定する。	13①
埋戻し	現場内発生土を使用する。	13① 18①
盛 土	現場内発生土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①

工 種	配 慮 す る 事 項	環境要素
法面保護工	植生工による法面保護工だけでは法面が安定しない場合や、植生の導入が困難な場合以外は、植生工による法面の緑化を図る。	10②
構造物	補強盛土工法等を活用する。	10② 14①
	丸太柵工には間伐材を活用する。	18①
	排水施設は、河川または自然排水路まで整備する。	13①
	排水を林地内で処理する場合は、フトン籠等により侵食の防止を図る。	13①
	二次製品を積極的に使用する。(集水柵等)	19①
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	18①
路面・路盤工	路盤材は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①

7. 道路改良（築造）工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環境要素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
埋戻し（盛土）	現場内発生土、再生クラッシャーラン及び改良土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
法面工	法面の積極的な緑化を図る。	10②
構造物	二次製品を積極的に使用する。	19①
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①
路 体	現場内及び他現場の発生土を使用する。	13① 18①
路 床	安定処理工法または置換工法（改良土）を検討する。	13① 18①
路盤工	下層路盤は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①

8. 舗装新設工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環境要素
舗装工	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
不陸整正	不陸材は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①

9. 側溝改良工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環境要素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
埋戻し	現場内発生土、再生クラッシャーラン及び改良土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
構造物	二次製品を積極的に使用する。	19①
	側溝は騒音抑制タイプの使用を検討する。	3②
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13①
路盤工	下層路盤は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①

10. 用悪水路改良・水路築造工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環境要素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
埋戻し	現場内発生土、再生クラッシャーラン及び改良土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
構造物	二次製品を積極的に使用する。	19①
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13①
路盤工	下層路盤は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①

11. 防護柵新設工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環境要素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
埋戻し	現場内発生土、再生クラッシャーラン及び改良土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止	3① 4①

	する。	
構造物	二次製品を積極的に使用する。	19①
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13①
路盤工	下層路盤は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①

1 2. 歩道新設工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
埋戻し	現場内発生土、再生クラッシャーラン及び改良土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
構造物	二次製品を積極的に使用する。	19①
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13①
路盤工	下層路盤は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①

1 3. 道路照明工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
埋戻し	現場内発生土、再生クラッシャーラン及び改良土を使用する。	13① 18①

工 種	配 慮 す る 事 項	環境要素
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
構造物	二次製品を積極的に使用する。	19①
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13①
路盤工	下層路盤は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①

1 4. 橋梁整備工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環境要素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
埋戻し	現場内及び他現場の発生土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
構造物	二次製品を積極的に使用する。	19①
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13①
基礎杭	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
仮設工	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①

15. 交差点改良工事

工種	配慮する事項	環境要素
掘削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
埋戻し	現場内発生土、再生クラッシャーラン及び改良土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
構造物	二次製品を積極的に使用する。	19①
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①
	側溝は騒音抑制タイプの使用を検討する。	3②
路盤工	下層路盤は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①

16. 駅前広場築造工事

工種	配慮する事項	環境要素
掘削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
	砂じんの舞うような状況の施工はしない。	1③
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
埋戻し	現場内発生土、再生クラッシャーラン及び改良土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
構造物	二次製品を積極的に使用する。	19①
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①
	側溝は騒音抑制タイプの使用を検討する。	3②
路 体	現場内発生土及び他現場の発生土を使用する。	13① 18①
路 床	安定処理工法を検討する。	13① 18①
路盤工	下層路盤は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①

17. 道路植栽工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
埋戻し	極力現場内発生土を使用する。	13① 18①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
構造物	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①
	植栽個所の状況により根元の保護が必要な場合は、根囲い保護材を使用し成長の促進を図る。	10②
支 柱	木製支柱を原則とし、極力間伐材の利用を図る。	18①
	特に景観を重視する場合は、地下式支柱を使用する。	14③

18. 宅地造成工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
掘 削	盛土材は現場内及び他現場からの発生土を使用する。	13① 18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
	実施時は、砂じんや濁水による周辺地域への影響を考慮する。	1④ 2②
表土工	表土材については良質発生土・良質残土の活用を図る。	13① 18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
	実施時は、砂じんや濁水による周辺地域への影響を考慮する。	1④ 2②

19. 公園植栽工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
埋戻し	現場内発生土を使用する。	13① 18①
支 柱	木製支柱を原則とし、極力間伐材の利用を図る。	18①
	特に景観を重視する場合は、地下式支柱を使用する。	14③

20. 公園整備工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
埋戻し	現場内発生土、再生クラッシャーラン及び改良土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止	3① 4①

	する。	
構造物	二次製品を積極的に使用する。（基礎コンクリート、集水柵等）	19①
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①
路盤工	下層路盤は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①

21. 土地区画整理事業

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
全工事	配慮事項は、工事毎に内容が適合する「設計・実施」編を使用する。	

22. 公共下水道工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
埋戻し	現場内発生土、再生クラッシャーラン及び改良土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。（マニフェスト管理）	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。（マニフェスト管理）	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
管布設工	小口径推進（塩ビ管）において、立坑内管布設部は可とう継ぎ手を採用し、埋戻し材は再生クラッシャーラン及び改良土とする。	18①
	大口径推進による特殊人孔に二次製品の使用を検討する。	19①
	私道の開削工事については、最小口径を150mmにする。	13①
推進工	泥水式推進工による泥水は管理型処分地、または再資源化施設へ必ず搬出する。（マニフェスト管理）	2② 18①
付帯工	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①
路盤工	路盤材は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①
仮設工	止水に当たり、ウェルポイント等強制排水は避け、水ガラス系等の土壌に安全な地盤改良工法とする。	2②

仮設工	鋼矢板の打込み引抜きについては、周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
	木製支保工に変え、鋼製腹起し並びにアルミ水圧サポートの使用に努める。	18①

2.3. 都市下水路工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	搬入時期等の整合が取れず利用が難しい場合は、ストックヤード等の設置を検討し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
埋戻し	現場内発生土、再生クラッシャーラン及び改良土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
付帯工	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①
路盤工	路盤材は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①
仮設工	止水は、土壌に安全な地盤改良工法とする。	2②
	鋼矢板の打込み引抜きについては、周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①

24. 河川工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
埋戻し	現場内発生土、再生クラッシャーラン及び改良土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
構造物	二次製品を積極的に使用する。	19①
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13①18①
仮設工	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①

25. 建築工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
工事全体	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
掘 削	残土の発生を抑える設計を行う。	13①
残土処理	残土の発生を抑える設計を行う。	13① 18①
地 業	砂利地業では再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①
型 枠	熱帯材型枠以外の型枠の使用を検討する。	19①
鉄骨・鉄筋	切り屑等のリサイクルに努める。	18①
金 属	切り屑等のリサイクルに努める。	18①
木 材	集成材使用を検討する。	18①
樋	樋受け柵に浸透型を使用する。	6①
内 装	石こうボードのリサイクル品の使用禁止。 (廃棄処分時、有害物質が発生する為)	18①

内 装	壁紙等のリサイクル品を使用する。	18①
	ホルムアルデヒド等の低使用製品を使用する。	18①
電気機械設備	低騒音・省エネ機器を選定する。	16①
断 熱	冷暖房設備の省エネの為に、断熱材を使用する。	16②
外 溝	透水性材料の使用を図る。	6①
	路盤工は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①
	インターロッキングブロックなどに再生品を使用する。	18①
植 栽	敷地の配置及び周辺の環境を考慮し種類を選定する。	14③

26. 建築解体工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
工事全体	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
廃棄物	材種別に分別収集し、リサイクルできるものは必ず再生プラントへ搬出する。	18①
	廃棄物の適正処理 (マニフェスト管理)	18①
	アスベスト、フロン、PCBの管理処分を行う。	18①
	砂じんなどの飛散防止に散水養生を行う。	1④

27. グラウンド改修工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
整地工 (舗装工)	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	盛土材は現場内及び他現場の発生土を使用する。	13① 18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
構造物	浸透枺の設置を検討する。	6①
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①

28. 建物外構工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環 境 要 素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
埋戻し	現場内発生土、再生クラッシャーラン及び改良土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
アスファルト 取り壊し	再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
構造物	二次製品を積極的に使用する。(集水桝等)	19①
	基礎材は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①
植栽工	建物周辺に生垣を設置する。	10①
	他現場で発生した樹木を利用する。	10①
路盤工	下層路盤は再生クラッシャーランを使用する。	13① 18①

29. 水道管布設工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環境要素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
埋戻し	現場内発生土、再生クラッシャーラン及び改良土を使用する。	13① 18①
コンクリート 取り壊し	30 c m程度に取り壊し、再生プラントへ必ず搬出する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
アスファルト 取り壊し	再生プラント工場へ必ず搬入する。(マニフェスト管理)	18①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
路盤工	下層路盤は再生クラッシャーランを使用する。	18①
舗装復旧	再生アスファルトを使用する。	18①
仮設工	木製支保工に変え、軽量金属製の使用に努める。	19①
配管材料	仮設配管に再利用可能材料及びリース材料を使用する。	18①

30. ポンプ室新設工事

工 種	配 慮 す る 事 項	環境要素
掘 削	残土の発生を抑える整備内容・構造物を検討する。	13①
	周辺住民の生活環境等への影響を考慮し、騒音・振動の発生を防止する。	3① 4①
残土処理	極力現場内での利用を図る。	13① 18①
	搬出する場合は周辺工事への搬入を検索し有効利用を図る。	13① 18①
	発生土中に他の廃棄物が混入しないように分別する。	13① 18①
埋戻し	現場内発生土、再生クラッシャーラン及び改良土を使用する。	13① 18①
機械設備	低騒音・低振動型のポンプを使用する。	3③